

京浜三港広域連携の取り組み状況について

1 京浜三港の連携強化の目的

京浜三港の連携は、アジア諸港の躍進等により日本港湾の国際的地位が低下するなか、このまま放置すれば国際基幹航路から外れ、我が国経済にも深刻な影響が出るとの危機感を共有し、東京湾の国際競争力の強化を図るため、横浜港、東京港及び川崎港の連携を一層、推進していくものです。

2 取り組み状況

(1) 共同ポートセールスの実施

ア 京浜港利用促進セミナーの開催

平成20年9月3日、長野県松本市において、地元荷主や物流事業者など約100名に対し、京浜三港で初の共同ポートセールスを実施しました。

イ 京浜港セミナーの開催

平成21年2月3日、都内において、船会社、荷主及び港湾関係者など約600名に対し、中田横浜市長、石原東京都知事、阿部川崎市長によるトップセールスを実施しました。

(2) 入港料一元化

ア はしけ（グリーンバージ）によるコンテナ輸送拡大の促進

平成20年11月から京浜港内を運航するはしけについて、入港料の全額減免を実施しました。

イ コンテナ船入港料の一元化

平成21年4月から京浜港内を連続して寄港するコンテナ船の入港料について、各港の減免により、一港分の料金とします。

(3) 京浜港共同ビジョンの策定

ア 策定目的

京浜港の港湾経営と港湾整備の基本的方針となる「京浜港共同ビジョン」を策定します。

イ 検討内容

- ・港湾利用コストの低減と高質なサービスの提供に向けた具体策
- ・貨物を集中させる仕組み
- ・合理的かつ効率的な機能及び施設配置
- ・三港連携の管理運営の仕組み

ウ 検討方法

京浜港広域連携推進会議の設置

第1回京浜港広域連携推進会議（平成20年11月10日）

【主な意見】

- ・連携による共通のメリットを明確化すべき
- ・海外の事例等を踏まえたポートオーソリティの要件の議論を重ねるべき
- ・港湾の生産性を踏まえた港湾コストの低減の議論をすべき

第2回京浜港広域連携推進会議（平成21年3月下旬予定）

エ 策定スケジュール

京浜港広域連携推進会議の検討などを踏まえ、平成21年度中に共同ビジョンを策定してまいります。

京浜港広域連携推進会議委員名簿

氏名	役職	備考
森地 茂	政策研究大学院大学 教授	座長
三村優美子	青山学院大学 教授	
渡邊 豊	東京海洋大学 教授	
池田 龍彦	横浜国立大学大学院 教授	
飯塚 孜	日本船主協会 副会長	
関根 康	外国船舶協会 専務理事	
福永 昭一	東京湾水先区水先人会 会長	
春原 博	日本荷役協会 専務理事	
藤木 幸夫	横浜港運協会 会長	
鶴岡 元秀	東京港運協会 会長	
三浦 等	川崎港運協会 会長	
小此木歌藏	神奈川倉庫協会 会長	
鈴木 幹夫	東京倉庫協会 会長	
大澤 正之	横浜商工会議所 専務理事	
茂木 洋	東京商工会議所 常務理事	
埜瀬 武	川崎商工会議所 専務理事	
徳川 恒孝	横浜港振興協会 会長	
平野 裕司	東京都港湾振興協会 会長	
齋藤 文夫	川崎港振興協会 会長	
岡本 坦	横浜港埠頭公社 理事長	
小池 正臣	東京港埠頭株式会社 社長	
川口 正敏	横浜市港湾局長	
斉藤 一美	東京都港湾局長	
片山 昭	川崎市港湾局長	

計24名